

だがしや楽校@月山ダムの集い：山形県鶴岡市発

にちじ：2011年7月31日（日曜日）9:00～16:00

ばしょ：月山ダム（山形県鶴岡市上名川）

2011年7月31日（日曜日）鶴岡市の天気：晴れ一時曇り

【だがしや楽校@月山ダムの集い】

山形県鶴岡市（旧朝日村）にある月山ダムは、日本海に流れる赤川の支流・梵字川（ぼんじがわ）に、国土交通省が事業主となって造られた特定多目的ダムです。完成したのは今からちょうど10年前の2001年。高さは123メートル。総貯水容量は65,000,000立方メートル。

この月山ダムでは毎年7月下旬に「楽しく遊んで月山ダムを知ろう」ということで“月山ダムの集い”を開いています。この“月山ダムの集い”では、これまでも何度か“だがしや楽校”が開かれていたのであります。

ダムについては様々な意見があります。山形県でもダム建設計画に対して賛成・反対の両方の意見が出されております。月山ダムで“だがしや楽校”を開くことは、ダムへの賛否は別にして、この際ダムについて考えるきっかけになれば良いのではないかと考えます。

だがしや楽校だがしや倶楽部主体で開いてきた“だがしや楽校@月山ダムの集い”ですが、私（山口）は、これまで別のスケジュールと重なり、実際に取材することができませんでした。ですので、今回が初めての報告となります。しかも、私（山口）自身もおみせ（だがしや楽校屋台）を出すことになりました。

それでは、ダムについては、それぞれでお考えいただくことにして、早速“だがしや楽校@月山ダムの集い”の模様をご紹介します。



はじめに、月山ダムを写真でご紹介しましょう。



↑ダム本体（堤体）



↑ダム本体（堤体）から見たダム湖



↑ダム本体（堤体）から見た下流側
赤い橋が国道 112 号線
その上に見えるのが山形自動車道



↑国道 112 号線（ダム湖）側から見た
ダム本体（堤体）



↑“だがしや楽校”をはじめとするイベントは、ダム本体（堤体）で行われました。高所恐怖症の人には、ちょっとつらい場所でした。



だがしや楽校以外の屋台・ブース・イベントからご紹介します。



↑ 山形県企業局
にごった水がきれいになる実験に挑戦！



↑ 測量機器で距離を測っています。



↑ はたらく車大集合。ダムのパトロールカーと高所作業車です。パトロールカーでは実際にサイレンを鳴らしてみました。ただでさえ高いダム本体（堤体）の上で高所作業車ですか～・・・。さすがは子どもたち、たくましいです。



↑ 子どもたちに人気だったのが、カブトムシジャンケン大会。勝ち進むとカブトムシがもらえるとあって、受付には長蛇の列ができていました。



↑押し花教室



↑ダム本体（堤体）内見学

ほかにはダム湖（あさひ月山湖）見学ということで、ボートに乗って湖面巡視体験も行われました。

それでは、だがしや楽校のおみせ・屋台をご紹介します。

▼水鉄砲作り



やっぱり夏は、水鉄砲です。



子どもたちだけでなく、大人の人も作ります。

さあ、できた水鉄砲は・・・



水鉄砲でアートしちゃいました！



子どもの体験広場普及員の Doi さんも大活躍です。



▼木エクラフト

こちらは、山形大学農学部 of 学生さんによる“森の学校”のブースです。

すっかりお馴染みになった木エクラフトのおみせです。丸太に、ビーズやマツボックリなど、いろいろなものを付けて楽しめます。



▼森のクイズ

同じく山形大学農学部 of 学生さんによる“森の学校”のおみせです。

葉っぱから木の名前を当てるといふクイズには、多くの大人の方、特にご年配の方が挑戦していました。



▼大きなシャボン玉



鶴岡工業高等専門学校・ボランティアグループによる、これまたお馴染みのおみせです。

ちょっと強い風に、シャボン玉は思わぬところへ飛んでいきました。

この日は、小谷先生自ら、子どもたちといっしょに遊ばれました。



▼ストーンアート



自然の石にアートしようというおみせです。お絵描きが大好きな子どもたちに大人気でした。

▼まんから（対戦ゲーム）



私（山口）のおみせは、西東京市で仕入れてきた遊び“まんから”。ただし、ルールはシンプルにしています。それでも、多くの子どもたちが遊んでいかれ、取材する時間が短くなってしまふほどでした。ちょっと頭を使う遊びのおもしろさに、感心していたのは親御さんでした。

▼紙芝居

すっかりお馴染みになりました創作紙芝居劇団“だだちゃまめ”のNさんによる紙芝居です。



お菓子を買った（もらった）後は、なぞなぞあり、クイズありの楽しい紙芝居です。



子どもたちだけでなく、大人の皆さんも楽しんでいます。



黄金バッドでは、みんなで黄金バッドの笑い声です。「ハッハッハ！」

午前9時から始まった“月山ダムの集い”でしたが、さすがに午前9時台の人出は少なく、午前10時スタートでも良いように感じました。事実、午前10時を過ぎますと、会場は大勢の人でにぎやかになり、私もなかなか取材することができないほどでした。

それにしても、“だがしや楽校”は場所を選ばないことをつくづく感じた“だがしや楽校@月山ダムの集い”でした。どんなところでも“だがしや楽校”は開けますし、そこが「自分みせ」の場になり、子どもたちにとっては「楽しく遊ぶことができる場」「地域の人や学生さんたちをいっしょに遊ぶことができる場」になっていきます。親御さんにとっても、自分の子どもを遊ばせるだけでなく、自分もいっしょになって楽しむことができる場であり、「“だがしや楽校”で体験した遊びを自分の家庭でもやってみよう」という親御さんもありました。

あらためて“だがしや楽校”とは「まずは実践」「とにかくやってみよう」ということを、身をもって感じたのであります。

一部写真撮影協力：阿部等さん（だがしや楽校だがしや倶楽部）

企画・制作・編集・文責：山口充夫（だがしや楽校コーディネーター）